

(毎月三日六日九日十二日十五日十八日二十一日二十四日二十七日三十日十回發行)

# 縣報 第二百廿三號

明治卅六年七月十二日 和歌山縣

## 公文

○和歌山縣訓令甲第三十二號

郡	役	所
警	察	署
警	察	分
署	署	署
市	役	所
町	村	役
		場

水災後ノ衛生上ニ注意ヲ要スルコトハ屢々訓令セシ處ナルカ過日來霖雨ノ爲メ縣下各地ノ  
 河川溢流シ又ハ雨水ノ溜溜シテ浸水ノ被害家屋少ナカラス此密ナル單ニ浸水ノ滲漉タル狀  
 況ニ止マラス必ラスヤ之ニ次ニ傳染病ノ流行スルヲ常トス目下縣下各地ニ於テ亦病病点發  
 シ加フルニ恰モ該病流行ノ季候ニ際會セルヲ以テ水災被害ノ土地ニ在テハ之カ豫防施設ハ  
 最モ緊要ニ付此際明治三十四年七月訓令甲第四十一號水災後衛生上ノ注意事項ヲ嚴禁シ傳  
 染病ノ發生又ハ其媒介トナルヘキ害因ヲ除却シ各人ノ健康ヲ保護スルコトニ賜ム可シ

明治三十六年七月十日

和歌山縣知事 伯曾 清 棧 家 敬

縣報第二百廿三號

明治三十六年七月十二日

第三種郵便物認可

一

○和歌山縣告諭第一號

過日來霖雨ノ爲メ縣下各地大小ノ河川溢流シテ居宅内外ニ氾濫セ又ハ雨水ノ滲漏シテ床上  
床下浸水ノ被害ヲ蒙リシ家屋不鮮之等ノ家屋ニ在ツテハ單ニ浸水ノ被害而已ニ止ラス之ニ  
次テ必ス來ラントスルハ傳染病ノ流行ナリ特ニ縣下各地ニ於テ赤痢病點發セ加フルニ恰モ  
該病流行ノ季候ニ際會セルヲ以テ水災被害ノ土地ニ在テアハ傳染病ヲ預防セ再ヒ來ラント  
スル爾後ノ不幸ヲ防止スルコト最モ緊要ニシテ一日モ忽爾ニ付ス可カラサルナリ故ニ此際  
當該吏員ノ指示ニ從ヒ居宅内外ノ清潔法ヲ嚴勵シ傳染病ノ發生シ又ハ其媒介トナルヘキ害  
因ヲ除却セ及ヒ身體ノ衛生並ニ飲食物、衣服ニ注意ヲ加ヘ以テ各自健康ノ保護ヲ怠ル勿レ

明治三十六年七月十日

和歌山縣知事

伯爵 清 漢 家 致

和歌山縣告諭第二號

害虫驅除豫防に關しては屢々示諭する所あり然れども未だ完善の效果を見るに至らず元來  
苗代は其面積狭小なるを以て害虫の發生を覺知し易しと雖ども本田に在りては廣闊なるが  
爲め著しき發生の際にあらざれば容易に觸目し難し今や插秧を了り諸種の害虫は將に本田  
に來襲して暴弊を逞せんとす若し驅除の好機を逸し其害既に迫るに暨で急遽驅除豫防の方  
策を講ずるも其作物に受くる所の損害は恢復すべからず僅少の害虫は稻作の常なりとし  
て恬然 顧ざる如きことあらば收穫減少を招くは必然にして秋收を俟ずして諸易きの理な  
り故に農家は努めて害虫の存在に注意して僅少と雖ども看過することなく直に驅除豫防を  
行ひ且子弟を指導して實績の風習を養成すへし

明治三十六年七月十日

和歌山縣知事 伯備 清 榎 家 敬

○町村助役ノ異動

海草郡宮前村助役

中島 清

右明治三十六年七月六日電可

○観測

明治三十六年七月七日ヨリ三日間雪地氣象概況

種類	七月七日		七月八日		七月九日	
	前年	本年	前年	本年	前年	本年
平均氣壓	七五三耗〇	七五四耗九	七五三耗四	七五二耗二	七五三耗四	七五二耗一
平均氣温	二四度〇	二二度〇	二三度〇	二貳度七	二四度〇	二三度二
最高氣温	二八度一	二三度一	二七度六	二四度五	二七度四	二五度八
最低氣温	二〇度三	一八度七	一八度二	二〇度一	二〇度〇	一八度〇

縣報第二百廿三號

明治三十六年七月十二日

第三種郵便物認可

四

多最風向	平均風力	天氣	雨雪量	記事
北	一米九	晴		
東北東	二米六	雨	二九耗八	午前〇時 廿五分 降雨斷 續 午前九時 海上風雨 ノ雪成積 到着
南西	二米八	晴		
南々西	六米三	雨	一八九耗一	前日來ノ 降雨午前 四時廿分 止再午前 六時十分 降雨 續ノ 午前一時 ノ全四
南西	四米五	晴		
西	三米五	晴	一四三耗九	前日來ノ 降雨午前 八時卅分 止 午前六時 ノ全七 時迄強風 アリ
				午後六時

